福井県立美術館 2013

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.140

contents

〈展覧会紹介〉生誕150年・没後100年記念
「空前絶後の岡倉天心展」
―大観、春草、近代日本画の名品を一堂に― [2～3]
〈特集〉手塚特別館長インタビュー [4～5]
〈イベント報告〉システィーナ礼拝堂　500年祭記念
「ミケランジェロ展―天才の軌跡」 [6～7]
〈イベント報告〉キッズミュージアム
石膏で手がたをとって、ミケランジェロに挑戦！ [8]
〈お知らせ〉休館日と貸館情報・「美術館喫茶室ニホ」 [8]
福井県立美術館　次回の美術館交流事業・テーマ展案内 [8]

表 紙：岡倉天心の写真　於ボストン美術館　（国立大学法人　茨城大学）

日本美術院の創設者・ボストン美術館東洋部長

空前絶後の 岡倉天心展

生誕150年・没後100年記念

大観、春草、近代日本画の名品を一堂に

2013年 11.1㊎ ▶ 12.1㊐

会　　場 ◎ 福井県立美術館
休 館 日 ◎ 11月11日㈪、18日㈪、25日㈪
開館時間 ◎
午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
初日を除く金・土曜日は午後8時まで（入館は午後7時30分まで）
特設Webサイト ◎
http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/heartofheaven/index.html
主　　催 ◎ 福井県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
共　　催 ◎ 福井放送株式会社
協　　賛 ◎ ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン
特別協力 ◎ 東京藝術大学大学美術館
料　　金 ◎
一般1,000円（前売り・団体800円）／高・大生700円（団体560円）／小・中生500円（団体400円）
※30名以上の団体は2割引。
※学生割引は学生証の提示が必要です。
※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。

【関連イベントのご案内】

◇ **国際シンポジウム**
［日時］11月2日㈯　13:30～16:30
○古田亮氏（東京藝術大学大学美術館准教授）
○フェリース・フィッシャー氏（ルーサー・W.ブラデー日本美術担当学芸員、フィラデルフィア美術館東アジア担当学芸員）
○清水恵美子氏（茨城大学人文学部・大学教育センター非常勤講師、五浦美術文化研究所客員所員）
［場所］福井県国際交流会館　多目的ホール（入場無料・申込不要）

◇ **講演会「岡倉天心と妣（はは）の国・福井」**
鍵岡正謹氏（美術館連絡協議会理事長）
［日時］11月23日㈯・㈷　14:00～15:30
先着100名（入場無料・申込不要）※ただし展覧会の観覧には別途チケットが必要
［場所］福井県立美術館　講堂

近代日本における美術指導者として知られる岡倉天心は、福井藩士岡倉覚右衛門の次男として1863（文久2）年に横浜で生まれました。天心は半世紀の短い生涯の中で文化行政の基礎を作り、美術学校や日本美術院で優れた美術指導者として活躍し、英文著作やボストン美術館のキュレーターの仕事を通して世界に東洋文化思想を伝えるなど、大変幅広い活動をしています。

本展では、今年が天心生誕150年、没後100年にあたるのを記念して、このように多面的な天心の全体像を豊富な作品や資料でご紹介いたします。

展示作品の中でも特筆すべきは、狩野芳崖筆「伏龍羅漢図」、「仁王捉鬼図」、「飛龍戯児図」と、橋本雅邦筆「毘沙門天図」の近代日本画の黎明期を代表する4点です。これらの作品は、天心の師であったアーネスト・フェノロサが特に高く評価し、自分のコレクションとしてアメリカへ持ち帰り、その後バラバラになったもので、本展で約100年ぶりに一堂に会します。

また本展では、最後まで天心の指導を直に受けた横山大観、菱田春草、下村観山を始め、天心に関係の深い画家たちの優品により、天心たちが目指した新しい日本画がどのようなものであったかを時代や様式を追ってご紹介いたします。

更に本展では、天心の家系がある福井で開催されるということもあり、従来謎に包まれていた父岡倉覚右衛門の詳細を解明し、天心のルーツに迫ります。また、展覧会開催に先立って行われたアメリカ調査の成果を踏まえ、アメリカ滞在中の天心の活動や交友関係等をこれまで以上に深く掘り下げます。

横山大観「流燈」
茨城県近代美術館所蔵

狩野芳崖「仁王捉鬼図」
東京国立近代美術館所蔵

第1章

国際人天心の誕生

天心の生い立ちと、開成学校時代にフェノロサと知り合い自らの方向性を決定するまでの過程を、福井との繋がりを絡めながら紹介する。

第2章

美術指導者としての天心

今日の日本美術界の基礎を築いた、美術行政官・教育者としての天心の業績を東京美術学校課題制作、美術学校教授作品によって紹介。また、美術保存分野を確立した業績については美校出身者による模写・模刻作品等で紹介。さらに天心とは対立軸にあった洋画家の作品を紹介する。

第3章

東洋文化発信

日本および東洋文化を世界に伝えた業績を、『東洋の理想』『日本の覚醒』『茶の本』の英文三部作や大観、春草の渡米・渡欧中の作品、米国新聞記事、手紙等で紹介する。特に福井出身の西大井久太郎が天心のパトロン的存在であったサースビー姉妹から受け継ぎ、持ち帰った大観・春草の渡米中作品を紹介するとともに、その天心一行とサースビー姉妹との交流を紹介。また、天心一行より早い時期に欧米に渡った西洋画家達の作品によって当時の西洋からの影響について考察する。

下村観山筆「岡倉天心草稿」
東京藝術大学所蔵

第4章

新たなる展開

日本美術院の活動を中心とする、天心とその弟子たちの研鑽、そして受け継がれる天心の理想を紹介。

菱田春草「王昭君」
善寶寺所蔵

菱田春草　《落葉》

～手塚特別館長ご推薦の《落葉》は11月1日から12月1日まで開催される「空前絶後の岡倉天心展」で展示されます～

特集《落葉》制作時期論争に終止符?!

―手塚雄二特別館長に聞く、これからの福井県立美術館

――この4月から福井県立美術館の特別館長になられましたが、今後、どのような美術館にしていきたいとお考えでしょうか。

手塚　まずは子どもたちへの鑑賞教育に力を入れていきたいと考えています。それはどこか大学等と連携して何かやろうというのとは違って、福井県立美術館にある作品が主体となる鑑賞です。特にここには菱田春草の《落葉》という名品が所蔵されているのだから、それを多くの子ども達に見せてあげたい。

――手塚先生は春草に特に深い思い入れをお持ちで、芸大生時代にローンを組んで買われたのが春草の豪華画集（推定11万円）であったとか。また、当館の春草作《落葉》が、重要文化財の《落葉》（永青文庫蔵）より後に描かれたということを示唆する文献についても教えていただきましたが、もう少し詳しくお話頂けませんでしょうか。

手塚　あれは村越画廊の先代が書いた『眼、一筋』に載っているのですよ。反町茂作さんというコレクターのところに、断られているのに村越さんがあの春草の屏風を持ち込んだものだから「もって帰ってくれ」と怒ってしまったのです。そこへお茶を持って出てきた奥さんが見るなり「女学生の頃に見た（永青文庫の）《落葉》がここにあるなんて。あなた、後生ですからこれを買ってください」と、お願い事一つしたことがないような控えめな奥さんが熱心に頼むものだから、そのコレクターの所有となったのです。その前には伊勢の小津家が持っていたというものだったのですよ。ほら、春草が文展に出品した永青文庫の《落葉》が大変な評判となって、伊勢の人に頼まれてまた描いたっていうじゃないですか。その人が手放した後で、そのコレクターの所蔵になっているから、経緯からいって、永青文庫のあとに描かれた作品になるのですよ。文展で評判をとった後だから、相当高い値段で買ったと思いますよ。それが今、福井県立美術館の所蔵になっているのです。

――となると、当館版は菱田春草晩年の《落葉》連作の5点中、最後の作品である可能性が、高いということですね。これは春草研究においても、大変貴重な情報となると思います。

手塚先生としては、春草の《落葉》連作の最後の作品であり、到達点とも言える当館の《落葉》を福井の子どもたちに見て欲しい、ということなのですね。

手塚　そうです。日本美術院には横山大観、今村紫紅、小林古径、安田靫彦等、いい作家がいるけれど、やはり春草が一番いい。その春草の《落葉》を持っているのだから、福井県立美術館は春草で押していきたいですね。そして、福井は岡倉天心の父と母が出たゆかりの地であるのだから、この偉人についてもっと知ってもらいたいと思っています。

（6月28日、福井市内にて）

後日談

手塚特別館長の話を受けて、当館の《落葉》の流通経路について、館では今一度洗い出しをしてみました。

＊

『眼、一筋』より

伊勢の小津家からの依頼で描き下ろされ、名古屋の森川家にあったものを村越画廊が入手。その後、新潟の反町茂作氏が奥様の希望で購入。

当時の学芸員 松村忠祀氏の記憶

昭和53年（1978）に屏風が購入されたとき、間に入った美術商は誰が所有していたものかは明かさなかったが、色々な方面から情報が入って、元は伊勢の人が持っていた作品であるらしかった。伊勢の人はその後、仲が良かった名古屋の森何某に作品を譲ったらしい。

＊

これらの聞き取り調査から以下のような流通経路が推察されます。

伊勢の小津家（小津與右衛門）
『美術研究資料 第9集 菱田春草』に画像あり
美術研究所（昭和15年3月10日発行）

▼

名古屋の森川家

▼

村越画廊

▼

新潟の反町茂作氏

▼

画　商

▼

福井県立美術館

今まで、この作品が永青文庫版より後に描かれたということを立証する資料はなく、簡潔な画面構成から、むしろ永青文庫の前に描かれた練習作のように見なされることも多々ありました。

平成15年（2003）、愛知県美術館の『菱田春草展』の開催にあたり、村田真宏氏は総ての《落葉》連作を実見し、当館版はむしろ永青文庫版《落葉》以降の春草作品と共通する装飾的要素があることを指摘し、「春草が《落葉》の連作で追求した絵画表現のもう一つの到達点であったということができる」と結論づけました。今回の聞き取りや美術雑誌に掲載された画像は、村田氏の結論を裏づけるものになりました。

今回は、手塚特別館長のインタビューを発端に、《落葉》の謎に迫りました。今後とも当館を代表するこの作品を調査し続けていきたいと思っております。

おまけ

村越伸氏の『眼、一筋』には《落葉》情報のみならず、村越氏の丁稚時代に、ともに修行に励んだ仲間である芹川貞夫前館長の叔父さんも登場し、「戦争で散ったが、目が利くいい男だった」と書かれていました。

手塚雄二
日本画家。日本美術院同人・理事。東京藝術大学美術学部絵画科日本画教授。
平成25年4月から福井県立美術館特別館長。

手塚特別館長の再興第98回院展出品作「遠望立山」を激写してきました。
（9月11日撮影）

56年振りに再出現！

橋本雅邦筆「臨済一喝」

岡倉天心と共に、近代日本画の基礎を築いた橋本雅邦（1835－1908）が明治30年の日本絵画協会第2回絵画共進会に出品した作品。本図は長らく所在不明となっており、本展覧会で56年振りに再出現した幻の作品である。本図で描かれる臨済義玄とは、唐の時代の禅僧で宗の開祖として知られる。「臨済の喝」と称されるように、義玄は問答の中で痛烈な喝を相手に浴びせることで有名だが、本図はまさに払子を振りかざし大きく口を開き、一喝する瞬間を切り取った作品である。

雅邦は弟子たちに対して、「心持ち」（技術だけにとらわれない精神性の表出）の大切さを説いた。臨済の気概に満ちた本図は、「心持ち」を標榜した円熟期の雅邦を代表作する作例である。

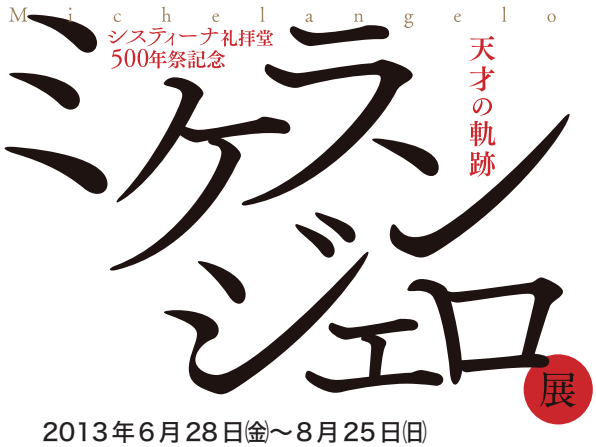
《イベント報告》

県立美術館では、福井新聞社、福井テレビと実行委員会を組織し、6月28日㈮～8月25日㈰まで、イタリア・ルネサンスの偉大なる巨匠ミケランジェロ（1475-1564）を紹介する「ミケランジェロ展 ― 天才の軌跡」を開催しました。日本初公開の作品を含む素描や彫刻、自筆の手紙など59点が展示され、県内外から連日、大勢の美術ファンが詰めかけました。

福井と東京（国立西洋美術館）のみで開催されることに加え、東京に先だって開催された当展には、夏休みに入ってからは平日でも1日約1000人が訪れました、8月12日には入場者数が5万人を突破し、県立美術館での展覧会入場者数の最高記録を更新しました。好評を受け、休館日の臨時開館や、開館時間の延長、シャトルバスの運行等により、最終的な入場者数は県内の美術展では過去最多となる8万8027人を記録しました。

会期中は、「特別講演会」や「見どころ解説会」「学校鑑賞会」の実施をはじめ、ミケランジェロ・カフェの開設や、地元レストラン、図書館、書店、公共交通機関等との連携イベントも盛りだくさんに開催され、展覧会を彩りました。

ご来場、ご参加いただきました皆様に、この場を借りて、お礼申し上げます。



2013年6月28日㈮～8月25日㈰
主催：福井県立美術館、福井新聞社、福井テレビ
※11月17日㈰まで同展は国立西洋美術館で開催

〈特別講演会〉

ミケランジェロ展に寄せて

8月7日㈬　15時30分～17時
当館講堂にて
講師●若山映子氏（大阪大学名誉教授）

「システィーナ礼拝堂天井画―イメージとなった神の慈悲」（東北大学出版会）の著者としても知られる、イタリア・ルネサンス美術研究の第一人者である若山映子先生をお迎えし、ミケランジェロ作品に込められた意味などについて、ご講演いただきました。2台のスライドを用いて、作品の変遷に沿った鋭い造形分析が示され、キリスト教における宗教的な意味が分かりやすく解説されました。何より、作品との真摯できめ細やかな対話から導かれた、氏のミケランジェロ像は、これまでの定説や固定化されたイメージを払拭し、平等と優しさにあふれた人間ミケランジェロを浮かびあがらせました。

特別講演会　若山映子氏

＊

見どころ解説会

会期中　（平日）14時～／（土曜、日曜、祝日）11時～、14時～　当館講堂にて
講師●当館学芸員

会期中は毎日、「見どころ解説会」と題されたミニレクチャーが実施されました。映像を映しながら、ミケランジェロの生涯や人物像、展示作品の鑑賞のツボを、学芸員が20分程度で分かりやすく解説するもので、たいへん好評をいただきました。

芹川貞夫美術専門員

＊

ミケランジェロ　カフェ

美術館喫茶室において期間限定のカフェがオープンし、ミケランジェロにちなんだ特別メニュー等が提供されました。装いも新たに模様替えされたオシャレな店内では、「ミケランジェロ」「システィーナ」と名付けられた、冷たい飲み物が好評でした。涼しい店内で、猛暑を忘れてイタリア気分を味わっていただくことで、展覧会の満足度もさらに上がったようでした。

ミケランジェロ カフェ

＊

連携イベント

「ミケランジェロ展」開催に合わせ、県内の飲食店を中心に60店舗以上との連携企画が行われました。チケット（半券）提示による飲食代の割引やドリンクサービス、特別メニューの提供など様々なサービスが提供されました。また、公共交通機関との連携では、お得なフリーきっぷの販売や割引などがありました。県立図書館では、美術講座「ミケランジェロとイタリア・ルネサンス」を開催するとともに、特設コーナーが設置されました。市立図書館や書店でも、イタリアやミケランジェロにちなんだ特別コーナーが開設されました。街ぐるみで、展覧会と生活との楽しいコラボレーションが生まれました。

来場7万人　記念品贈呈

ミケランジェロ肖像画

システィーナ礼拝堂天井画の再現

《イベント報告》

キッズミュージアム 石膏で手がたをとって、ミケランジェロに挑戦！

石膏で手がた彫刻をつくって、ミケランジェロに挑戦しました。

日時●平成25年7月6日(土)　9:30～11:00／7月7日(日)　9:30～11:00

対象●小・中学生　※参加者は7月6日(土)　20人／7月7日(日)　20人

アドバイザー●内藤秀信氏（ペーパークラフトモデラー、ごじら工房主宰）

完成！手のかたちと色の重なりの意外なおもしろさに、歓声があがりました。

みんなでミケランジェロクイズに挑戦！答え合わせが楽しみな瞬間。

お知ら せ

◎10月～2014年2月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

10月21日(月)～31日(木)、11月11日(月)、18日(月)、25日(月)、12月2日(月)～11日(水)、16日(月)～19日(木)、24日(火)～31日(火)、1月1日(水)～7日(火)、14日(火)～16日(木)、20日(月)～23日(木)、27日(月)～30日(木)、2月3日(月)～5日(水)、10日(月)、17日(月)～20日(木)

貸館情報 [12/12~2014.2/2]

（平成25年）	
12/12～12/15	第63回福井県勤労者美術展
12/12～12/15	第46回彩美会日本画展
12/12～12/15	四季挽歌一坂井敏之展
12/20～12/23	第63回福井書法展
（平成26年）	
1/9～1/13	第37回琢の会洋画展
1/9～1/13	第22回武蔵野美術大学校友会福井支部展
1/17～1/19	書勢会展一競書展・会員展
1/17～1/19	第5回福井大学美術科在学生・OB・OG有志展
1/24～1/26	第61回福井奎星展
1/24～1/26	尚山会水石展
1/31～2/2	第34回日本墨書会展
1/31～2/2	新彫会彫刻展

福井県立美術館　次回の美術館交流事業・テーマ展案内

[ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業]

「生誕110年記念　棟方志功展」

—青森県立美術館コレクションによる—

平成26年2月21日(金)～3月23日(日)

生誕100年記念展「小野忠弘の軌跡」

平成26年2月21日(金)～3月23日(日)

前衛美術作家として国際的な評価を得た小野忠弘の生誕100年を迎える今年、彼の創作活動の軌跡を、数々の作品によってご紹介します。

小野忠弘
「無題（BLUEシリーズ）」

はじめまして。

「美術館 喫茶室 ニホ」といいます。

11月1日（金）

県立美術館正面の左手にオープンします。

□open　9時～19時　■closed　月曜日

本誌は再生紙を使用しています。

編集／発行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印刷：河和田屋印刷株式会社　発行日：平成25年10月25日　13.10.20220